

# 歴史学

第12回 アニメの歴史2  
ガンダムからエヴァへ  
—1980年代周辺のアニメ—

出口 憲

# 主に取り上げるアニメ

- 宇宙戦艦ヤマト（1974年）
- 未来少年コナン（1979年）
- 機動戦士ガンダム（1979年）
- 伝説巨神イデオン（1980年）
- 王立宇宙軍 オネアミスの翼（1987年）
- トップをねえらえ！（1988年）
- ふしぎの海のナディア（1990年）
- 新世紀エヴァンゲリオン（1995年）
  - エヴァンゲリオンは見てないので取り上げない

# 主に取り上げる人物

- 西崎義展
- 松本零士
- 富野喜幸（富野由悠季）
- 宮崎駿
- 庵野秀明

# 私の背景

- 1969 年生まれ
- 1980 年代は 11 ~ 20 歳だったので、まさしく 80 年代のアニメを見て育った
- 11 歳のとき、ガンダムがブームとなり、中学で友達からザブングルを見るように勧められ、以後アニメを見まくるようになった
- ビデオデッキを買ってから、放送時間が重なるものはほとんど録画していた（多いときは週 20 ~ 30 本くらい見ていたはず）
- 2005 年以降のアニメには疎い

# 宇宙戦艦ヤマト

- 1974年放送、後にシリーズ化
- ガミラスからの遊星爆弾の攻撃により地球は放射能汚染が進み人類滅亡まであと1年、戦艦大和が宇宙戦艦ヤマトとなり地球を救うというストーリー
- それまでにないリアルなSF設定が特徴
- 毎回「人類滅亡の日まで、あと200と15日」というようなナレーションで終わる
- アニメファンはヤマトから誕生した

# 宇宙戦艦ヤマト

- 西崎義展が中心となって企画、松本零士が途中から参加
- 当初39話の計画が、視聴率が振るわず26話打ち切り、再放送で人気になり映画化
- 視聴率が振るわなかった原因は「アルプスの少女ハイジ」の裏番組だったため
  - ヤマトの視聴率5%程度
  - ハイジの視聴率30%程度
  - 「ハイジ」スタッフの1人が宮崎駿

# 宇宙戦艦ヤマト

- 松本零士がヤマトのデザインを大幅に変更
  - 最初のヤマトは小惑星を改造した宇宙船
- 当初案の39話では、主人公「古代進」の兄「古代守」がガミラスへの復讐の鬼「キャプテン・ハーロック」として再登場する予定であった
- 後に西崎と松本のどちらが著作者かを争って裁判になり、西崎が著作者ということで決着
- 松本はヤマトをマンガ化してヒット
  - ちなみに、ヤマトのマンガは他にもあった

# 「さらば」と「ヤマト2」

- 西崎は最初のヤマトの成功をもとに映画「さらば宇宙戦艦ヤマト 愛の戦士たち」（1978年）を製作、空前のヒット作となる
- 「さらば」のラストはヤマトが特攻するため賛否両論あった
- TV「宇宙戦艦ヤマト2」（1978年）ではテレサに助けてもらいヤマトは地球に帰るというラストに変更（特攻が気に入らなかった松本の意向が反映された）
- 以後のヤマト作品はTV「ヤマト2」の続きという位置づけになる。



# 「ヤマト」に対する考察

- ヤマト第1話で沖田艦長が古代守にいう「明日のために今日の屈辱に耐えるんだ、それが男だ」
  - リメイクの「2199」にはこのセリフはない
- 「ヤマト2」のテレサ「勝って帰るよりも、負けて帰ることの方が勇気のいることなのですよ」
- 松本零士にとって、これらのセリフが大切だったのだろう
  - 私は「さらば」より「ヤマト2」の方が好き、「ヤマト2」では土星決戦で地球防衛艦隊が活躍する点が気に入っている

# ヤマト以外の松本零士作品

- 「男おいどん」（1971～1973年）などの四畳半まんがシリーズ
- 「戦場まんがシリーズ」（1969～1989年）、後にOVA化
- 「宇宙海賊キャプテンハーロック」（1977～1979年）、アニメ化・映画化
- 「銀河鉄道999」（1977～1981年）、アニメ化・映画化、ヒット作品の1つ
- 「新竹取物語 1000年女王」（1980～1983年）、アニメ化・映画化

# 松本零士作品の特徴

- ちなみに松本作品は全てつながっている
- 1000年女王の「雪野弥生」は「メーテル」(銀河鉄道999)の母「プロメシウム」
- 「クイーン・エメラルダス」と「メーテル」は姉妹
- ヤマトの古代進の兄である古代守は「キャプテン・ハーロック」
- 「ハーロック」の親友「大山トチロー」は「エメラルダス」の夫
- 「星野鉄郎」(銀河鉄道999)がもらう「戦士の銃」は「大山トチロー」のものだった

# 富野喜幸と西崎義展

- 西崎義展は手塚治虫の「虫プロ」に籍を置いていた（西崎は手塚のマネージャー）
- 1964年、虫プロに入社したのが富野喜幸
- 「海のトリトン」（1972年）で西崎がプロデューサー、富野が監督という関係
- 富野はトリトンを衝撃の最終回（主人公が正義でない可能性を示唆）とするため、西崎に相談せず脚本を勝手に変更した
- 富野は西崎からヤマトの絵コンテを頼まれるが、気に入らないストーリーを改変して絵コンテを描いたため西崎が激怒、西崎と縁が切れる

# ガンダムまでの富野喜幸

- 富野は日本大学芸術学部映画科を卒業しており、本来は実写映画を製作したかった
- 富野は虫プロを辞めたあと「さすらいのコンテマン」となる
- 富野は絵コンテを仕上げるのがとにかく速い
- 「ラ・セーヌの星」（1975年）で後期の監督、「母をたずねて三千里」（1976年）でも高畑勲、宮崎駿などと一緒に仕事をする
- 宮崎とは同い年（2人とも1941年生まれ）であり、宮崎にライバル意識を抱く

# ガンダムまでの富野喜幸

- 「無敵超人ザンボット3」（1977年）で主人公以外の人物がほぼ死んでしまうという衝撃のストーリー展開を行う
  - 人間爆弾は子どもにトラウマを植え付けた？
- 「無敵鋼人ダイターン3」（1978年）では明るいコミカルなストーリー
  - 主人公の名前は破嵐万丈
- 富野作品は、上記のような「重い話」と「明るい話」を行ったり来たりするのが特徴（後述）

# 機動戦士ガンダム

- 1979年放送、後にシリーズ化
- 斬新なSF設定とリアルな戦争を描く展開
- 本放送は視聴率が振るわず、52話の予定が43話打ち切りとなる
- バンダイがプラモデルを発売すると再放送で人気が出始める
- TVをもとに編集した3本の映画がヒット
- 上映イベントとして「アニメ新世紀宣言」

# 機動戦士ガンダムとその影響

- 「アニメ新世紀宣言」で、富野は「アニメは低俗なものではない」と宣言する
- 1980年頃、ヤマトを体験した世代が中高生から大学生となっており、子ども向けでないガンダムを受け入れる素地があった
- これらを裏付けることとして、1980年前後にアニメ雑誌が多数創刊され、雑誌を購入する一定のファン層がいたことになる
- バンダイはガンプラによって株式上場できた（ヤマトのプラモデルもバンダイ）



# 伝説巨人イデオン

- 1980年、本来52話が39話打ち切り
- 「重い話」で人間のエゴがひたすら描かれる
- TV版最終話で「そのときイデは発動した」のナレーションと共に意味不明のまま終わる
- 真のラストを描くために映画化される
- 2部構成で同時上映（3時間）
  - 接触編…TVダイジェスト
  - 発動編…新作部分
  - エヴァも旧劇場版は2部構成だよね…

# 富野喜幸から富野由悠季へ

- 「発動編」で登場人物のみならず、地球人も敵のバップクランも1人残らず全員死ぬ
  - その後、新しい世界で生まれ変わるが…
  - 富野はインタビューで「馬鹿は死ななきゃ直らない」と答えたことがある
- これ以降「**皆殺しの富野**」と呼ばれる
  - ザンボット3のころから「皆殺しの富野」の気配があったのは間違いない
- イデオン製作後、「富野喜幸」を「富野由悠季」に改名する
- この後、怒涛の5年間が始まる

# 富野由悠季・怒涛の5年間

- 「戦闘メカ ザブングル」（1982年）、明るい話、未来の荒廃した地球が舞台、主人公たちは死なない
  - 富野曰く「もうイデオンみたいなのはやめましょう」
- 「聖戦士ダンバイン」（1983年）、重い話、中世ヨーロッパ風の異世界バイストン・ウェルの物語、主人公たちは全て死ぬ
  - チャム・ファウだけ生き残り、チャム・ファウが語ったのがダンバインの物語という落ち
- 「重戦機エルガイム」（1984年）、少しだけ明るい話、ペンタゴナワールドという5つの惑星が舞台、主人公は死なない
  - 主人公の妹は精神崩壊で悲惨なことになる

# 富野由悠季・怒涛の5年間

- 1985年からガンダムの続編が始まる
- 「機動戦士Zガンダム」（1985年）、重い話、最初のガンダムから6年後の話、主人公は死なないが最後に精神崩壊
- 「機動戦士ガンダムZZ」（1986年）、明るい話、Zの続き、最初の主題歌「アニメじゃない」、ただし後半はシリアスな展開
- 内容の異なる新しい作品を5年間立て続けにつくった
- 映画「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」（1988年）、アムロとシャアの物語が完結

# 富野由悠季と宮崎駿

- 宮崎が映画監督として評価されているのに対し、富野は自分がアニメ監督としてのみ評価されることが嫌だと感じている
  - 宮崎は初監督として「未来少年コナン」（1978年）をNHKで製作
  - 宮崎は映画「ルパン三世カリオストロの城」（1979年）も製作するが、興行成績は振るわず、ナウシカまで監督業ができなくなった
  - 富野は「ガンダムでコナンを潰すぞ」とスタッフに宣言していたが、ガンダムは打ち切り
  - 宮崎が映画「風の谷のナウシカ」（1984年）を製作すると「ダンバイン」の「ファンタジー、異世界もの」で対抗

# 庵野秀明

- 庵野は大阪芸術大学の学生時代に自主製作アニメなどを数多く製作した
- 庵野の周辺には、山賀博之、島本和彦、士郎正宗、岡田斗司夫などがいた
- 特に自主製作アニメ集団 DAICON FILM の製作した **DAICON III**、**DAICON IV**、**愛国戦隊大日本**、**帰ってきたウルトラマン**（庵野がウルトラマンを演じる）などは今でも Youtube で見ることができる
- DAICON FILM のメンバーが後のガイナックスの中心メンバーとなる

# 庵野秀明と宮崎駿

- 庵野は自主製作アニメの出来栄えを買われ、「超時空要塞マクロス」（1982年）の製作に参加
- 作画スタッフの募集を見て上京し、映画「風の谷のナウシカ」の製作に参加した
- ナウシカの巨神兵を作画したのが庵野である
- 宮崎から高い評価を受ける
- 庵野は宮崎駿、マクロスの板野一郎から大きな影響を受けたという
  - 板野は板野サーカスと称される作画で有名

# ガイナックスと王立宇宙軍

- 「王立宇宙軍 オネアミスの翼」（1987年）、庵野らが創設したガイナックス初作品
- 「王立宇宙軍」は地球でないどこかの星で有人宇宙飛行を目指す話
  - 米映画「ライトスタッフ」と似ている
- キャラクターデザインは貞本義行
- 舞台設定やSF考証などは詳細なもの
- 庵野はロケットの打ち上げシーンの作画を1人でこなした
  - このころは手描きアニメが当たり前だが、CGなしでもここまでできる



# トップをねらえ！

- 1988～1989年、OVA全6話
- テニス漫画「エースをねらえ！」を元ネタにパロディ要素もあるSFアニメ
- 宇宙怪獣と戦うため、主人公タカヤ・ノリコが宇宙パイロット養成校でコーチのオオタ・コウイチロウに見出され、才能を開花させる
- 憧れのお姉さまアマノ・カズミも登場
- 最後の戦いから地球に戻ってくると相対論効果により地球では1万年以上経過している
- ガイナックスの赤字解消のために製作された

# ふしぎの海のナディア

- 1990年、NHKのTVアニメ、全39話
- ジュール・ベルヌの「海底二万里」が原案
- キャラクターデザインは貞本義行
- 旧約聖書、アトランティスなどの超古代文明などエヴァンゲリオンと似た設定がある
- いろいろな作品をパロディとして取り入れた
- 途中でスケジュールが逼迫、本編と関係ない「島編」という場繋ぎの話がある（海外発注したため作画崩壊がおきた）
- 最終部は作画レベルが元に戻る

# 新世紀エヴァンゲリオン

- 「新世紀エヴァンゲリオン」（1995年）  
テレビ東京のTVアニメ、全26話
- 「人類補完計画」がキーワード
- 旧約聖書やその外典・偽典の用語を借用し、  
数々の謎がちりばめられ、アニメファンを引き寄せる仕掛けが多数あった
  - 庵野自身がアニメファンだったので、どのような要素がウケるかよくわかっていたと考えられる
- 私もまんまとハマり、CDやLDなどを買いました

# 新世紀エヴァンゲリオン

- 当時普及し始めたインターネットにおいて、様々な掲示板で話題になり社会現象となる
- 今までの作品と同じように、最終回へ向けてスケジュールが逼迫し、作画崩壊や絵が動かないシーンが続くなども発生
- TV版の最終回、人類補完計画が発動するが、主人公シンジの内面世界のみが描かれ、最後にシンジはみんなから祝福されて終わる
- このラストは大きな議論を呼び起こし、納得したという人は少なかったようである

# 旧劇場版新世紀エヴァンゲリオン

- 視聴率も高く、関連商品もヒット、世間の評判も高いことから劇場版が製作される
- 旧劇場版は2つの作品から構成される
- 「シト新生」…1997年3月公開、TVダイジェスト（DEATH）＋最終2話（REBIRTH）の途中まで
  - 本来、最終2話を全て収めるはずだった
- 「Air/ まごころを、君に」…1997年7月公開、「シト新生」の続き
  - 本来、完全新作の予定だった

# さて、エヴァとは何だったのか

- 劇場版が2部構成なのは「イデオン」を意識していたのではないかと  
  - イデオンは発動編で全人類が死ぬ
  - Air も人類が全て液状化するという意味で全人類が死ぬ（シンジとアスカは残るが…）
- Air を見たのは静岡に引っ越してきたころで「庵野秀明はイデオンをやりたかったんだ」と見終わったとき感じた
- 庵野はかつて自分が見て感銘を受けた作品と同じような作品を自分で作りたかったと考えられる

# さて、エヴァとは何だったのか

- 映画館で私の前にいた中学生くらいの女の子たちは見終わった後に「結局何なのこれ？」と言いつ合っていた
- 当時（1997年）中学生くらい（今は40歳前後？）だとイデオンは知らないだろう
- 心の中で「君たちもイデオンを見れば、これが何かわかるはずだ」と思った
- 「エヴァの謎に対する答えを用意するつもりはなかった」という主旨の発言を庵野がしていたはず（記憶だけで裏付けなし）

# まとめ

- 松本零士、富野由悠季、宮崎駿などの子ども時代にマンガはあったが、今のようないアニメはなかった
- 庵野秀明は子ども時代から、特撮、マンガ、アニメで育った世代である
- 富野・宮崎と庵野は子ども時代の背景が違う
- 今や、庵野の作品を見て育った世代がアニメやマンガを製作する側に回っている
- 宮崎が「風立ちぬ」の主人公の声優として庵野を起用→今後を庵野に託しているのだろう



# まとめ

- 1980年代をはさんで、アニメやマンガはサブカルチャーからメインカルチャーへ変貌したといっってよい
  - 支えているファンの人数を考えると、文学作品などはかつての地位を失いつつある
- ただし、アニメやマンガの裏側に多くの古典（神話、小説、映画など）の構造があることに注意が必要
- よって、古典的な作品も知っておくと、アニメやマンガを深く理解できるはず

# 参考文献など

- Wikipedia、西崎義展、松本零士、富野由悠季、宮崎駿、庵野秀明に関する項目
- 徳間書店ロマンアルバム
  - 「宇宙戦艦ヤマトパーフェクトマニュアル1・2」 1983年
  - 「伝説巨神イデオンTV・劇場版」 1982年
  - 「風の谷のナウシカ」 1984年
- 太田出版「イデオンという伝説」 1998年
- スタジオT&M「DAICON FILMの世界 Vol.1」 1983年
- バンダイ「オネアミスの翼 王立宇宙軍 COMPLETE FILE」 1987年 など